

姫島村人口ビジョン

姫島村まち・ひと・しごと
創生総合戦略

平成27年10月

姫島村

も く じ

第 1 章 姫島村人口ビジョン

第 1 部 基本的な考え方	1
1 策定の背景	
2 人口ビジョンの概要	
3 対象期間	
第 2 部 人口の現状分析と将来推計	2
1 人口の推移と将来推計人口	
2 人口の現状分析	
3 人口の将来推計と分析	
4 人口の現状分析等のまとめ	
第 3 部 目指すべき将来の方向	13
1 人口減少対策の基本的方向	
2 目指すべき人口の展望	

第 2 章 姫島村まち・ひと・しごと創生総合戦略

第 1 部 基本的な考え方	14
1 策定の背景	
2 総合戦略の概要	
3 対象期間	
第 2 部 基本目標と具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）	15
基本目標 I 結婚・出産・子育て・人づくりの推進	15
1 婚活の推進	
2 母子保健事業の推進	
3 医療費の助成	
4 保育の充実	
5 幼児教育の充実	
6 学校教育の充実	
7 社会教育の充実	
8 男女共同参画社会の推進	

9	婦人会活動の充実	
10	高齢者が生きがいをもって暮らせる環境づくり	
	基本目標Ⅱ 水産業の振興と地域資源を活用した産業の振興、雇用の促進	19
1	水産業の振興	
2	産業の振興	
3	雇用の促進	
	基本目標Ⅲ 安心して暮らせる村づくり	23
1	健康づくりの推進	
2	フェリーの安定・安全就航	
3	社会資本の整備	
4	良質な水道水の安定供給	
5	下水道の整備	
6	ごみ処理対策の推進	
7	空き缶デポジットシステムの推進	
8	消防・防災等安全体制の強化・充実	
9	火葬場、斎場の整備	
10	景観計画の策定及び文化的景観事業の実施	
11	空き家対策	
12	二次交通対策	
13	ひとり親家庭に対する支援	

第1章 姫島村人口ビジョン

第1部 基本的な考え方

1 策定の背景

国の策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において、人口減少は今後加速度的に進み、特に地方は大都市へ人口流出する「社会減」と、出生率が低下する「自然減」により、現状のまま推移すると地域経済社会の維持が重大な局面を迎えるとされています。

「姫島村人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重しつつ、あわせて策定する「姫島村まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、効果的な施策を企画立案するうえでの重要な基礎とするために策定するものです。

2 人口ビジョンの概要

「姫島村人口ビジョン」は、本村における自然減や社会減等の人口の現状を分析し、把握した課題を踏まえ、目指すべき将来の方向を提示します。

3 対象期間

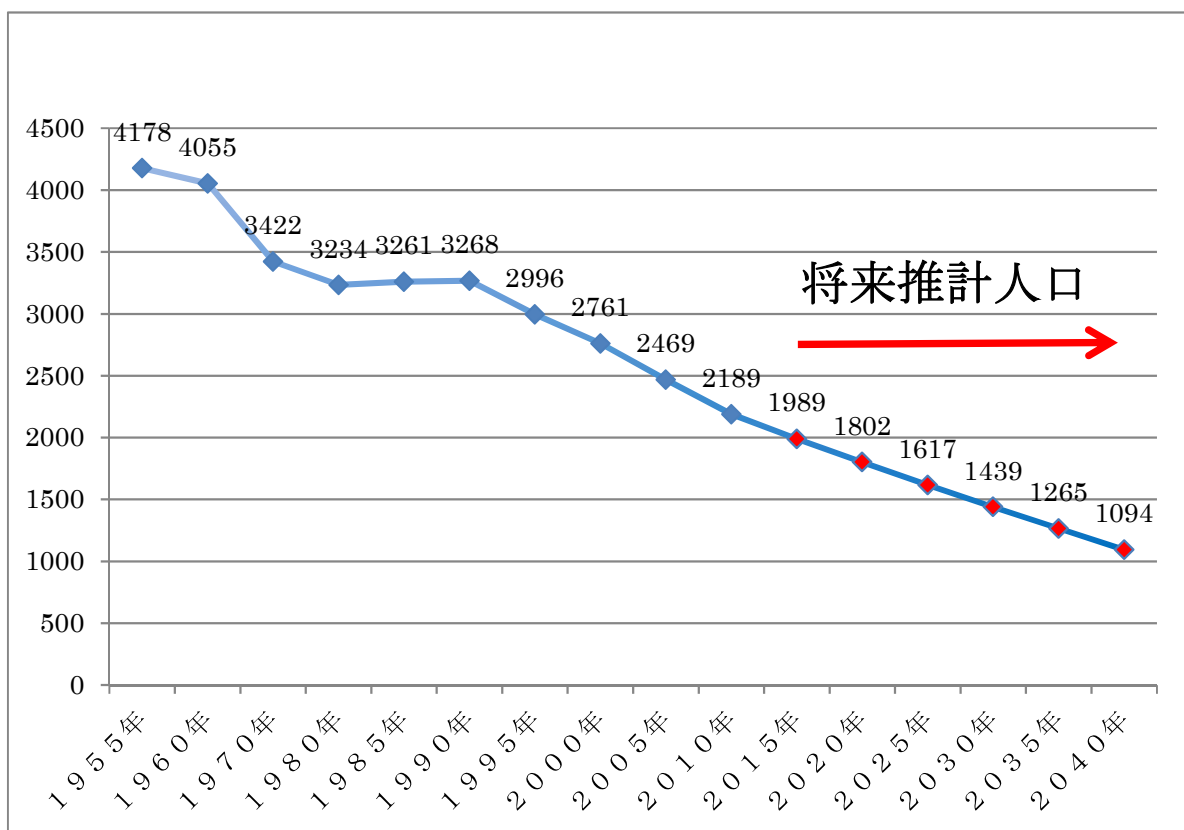
「姫島村人口ビジョン」の対象期間は、平成72年（2060年）までとします。

第2部 人口の現状分析と将来推計

1 人口の推移と将来推計人口

本村では、平成24年度を初年度として策定した「姫島村第3次総合計画」において、平成33年度の本村将来人口を2,189人の現状維持を目指して、村づくりを進めているところですが、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」によると2020年（平成32年）には1,802人、2040年（平成52年）には1,094人にまで減少するとされています。

(1) 人口の推移と将来推計人口



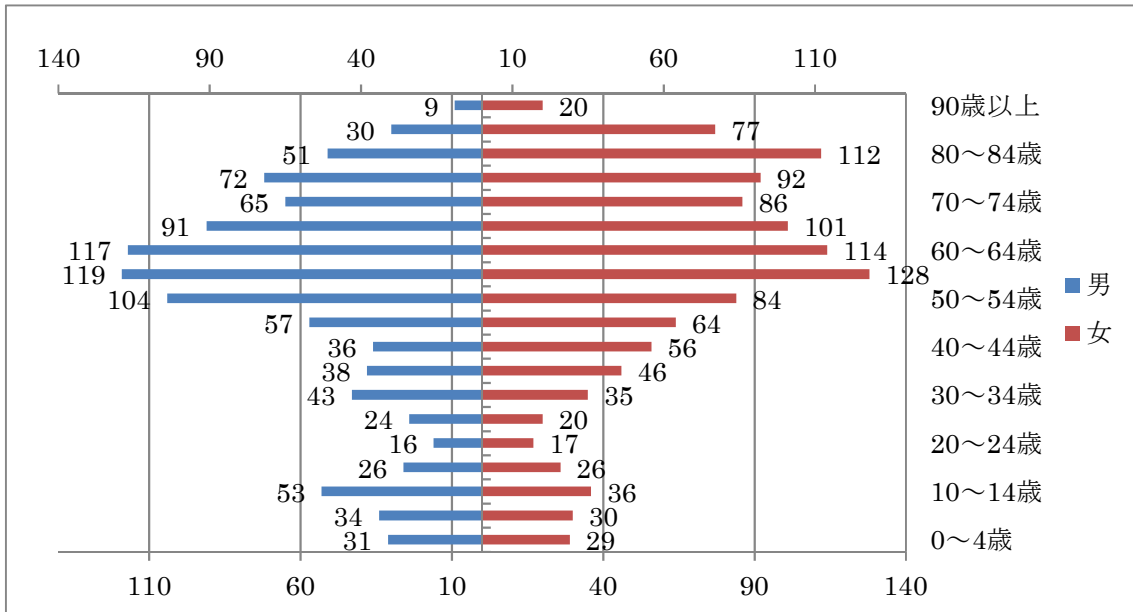
出所：1955（昭和30年）～2010年（平成22年）国勢調査

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」

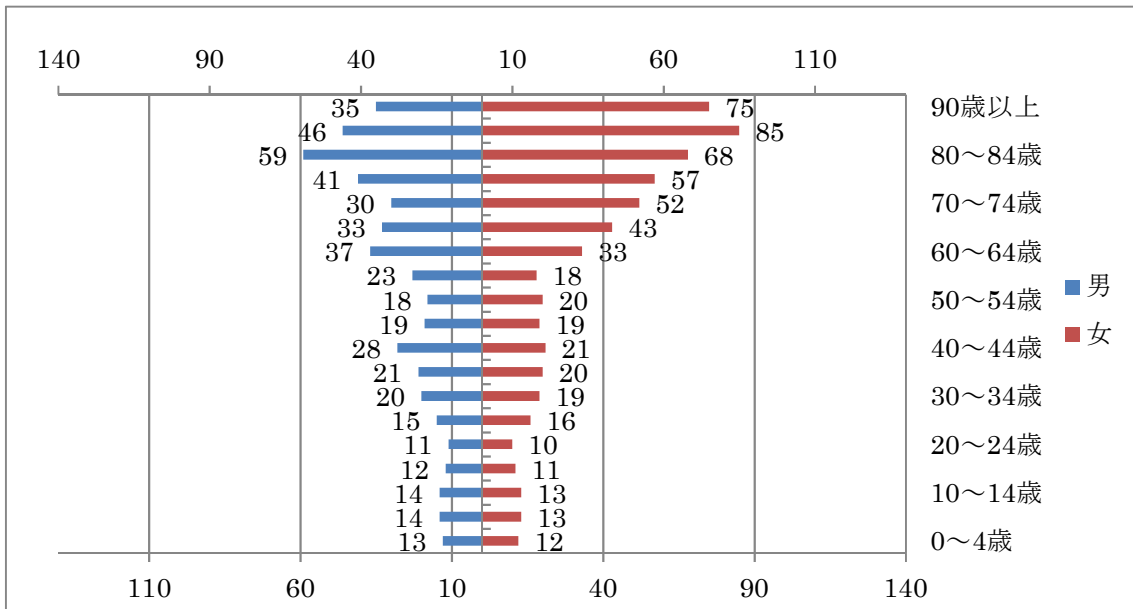
(2) 人口ピラミッド

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」によると 2040 年（平成 52 年）の本村人口は、1,094 人と予測されており、高齢化率は、57%に達するとされています。

●2010 年（平成 22 年）国勢調査



●2040 年（平成 52 年）国立社会保障・人口問題研究所推計人口



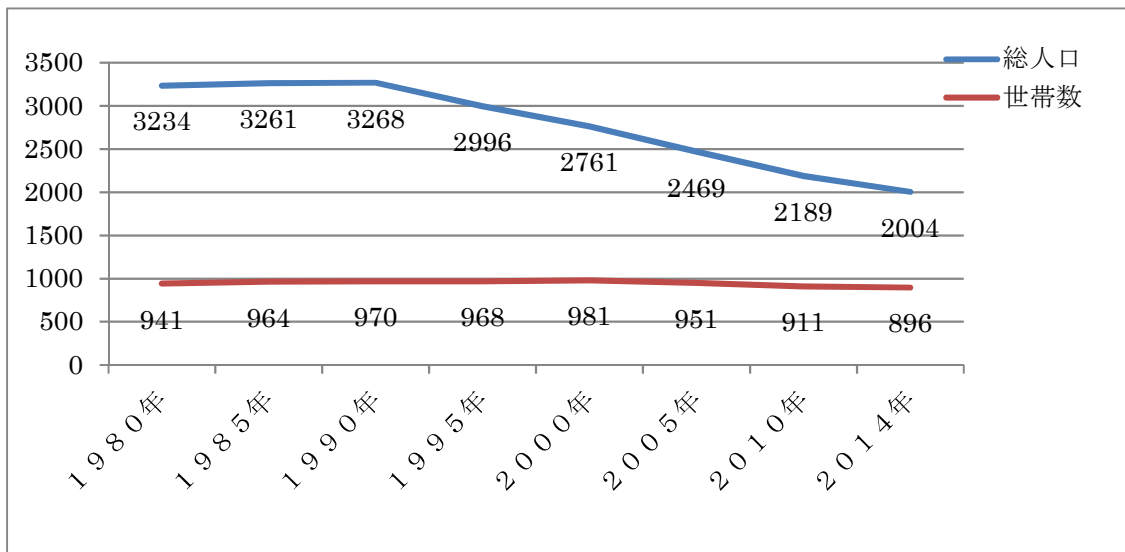
2 人口の現状分析

(1) 人口の推移

年少人口及び生産年齢人口がともに減少していることから、総人口は、年々減少しています。老年人口は増加していることから、親・高齢者を残して若年層、子育て世代が進学・就職等を理由に転出していると思われます。

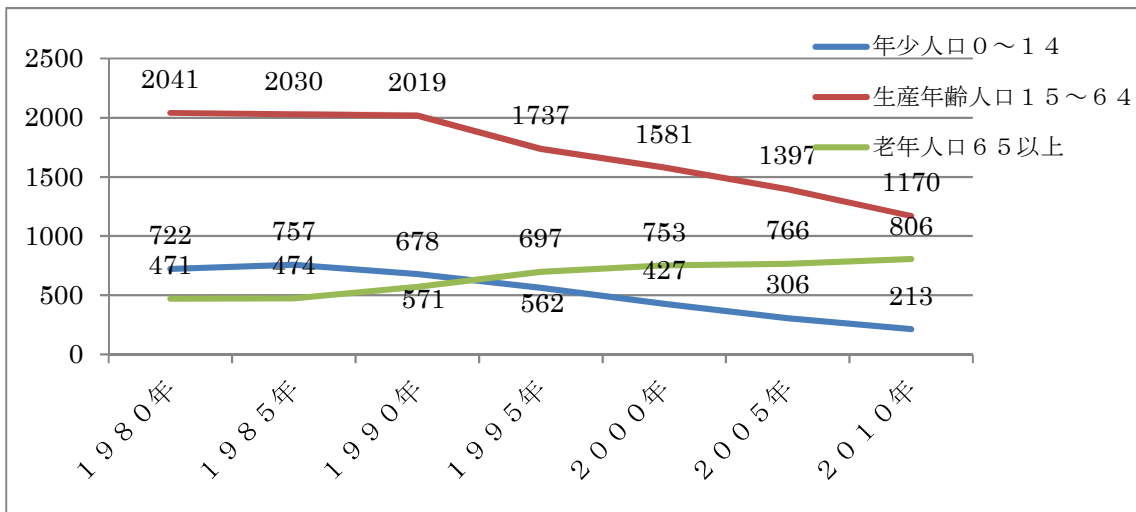
人口の減少とは別に世帯数は横ばいで推移していることから、単身世帯の増加が見られます。

① 総人口・世帯数推移



出所：1980（昭和55年）～2010年（平成22年）国勢調査
2014年（平成26年）大分県統計年鑑

② 人口三区分別の人口推移



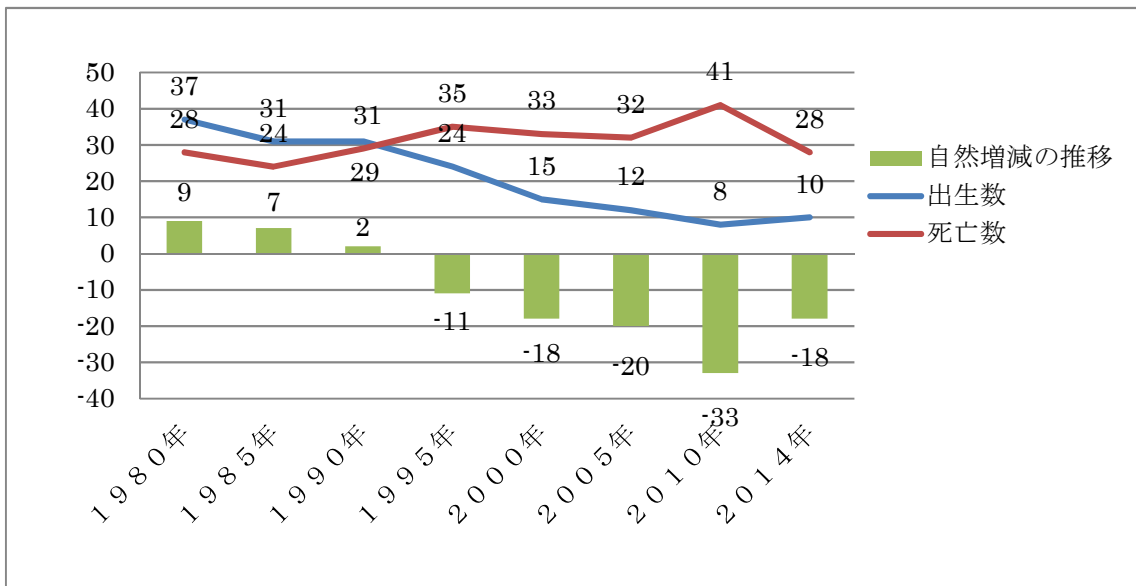
出所：国勢調査

(2) 自然増減に関する分析

1980年（昭和55年）代後半から1990年（平成2年）代前半のバブル経済期を境に死亡数が出生数を上回っています。

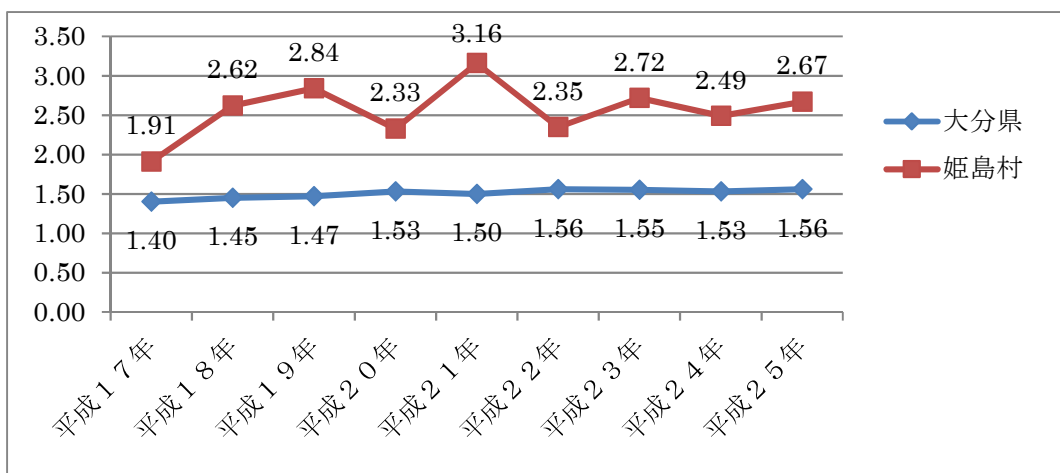
合計特殊出生率は、平成25年までの5年平均で2.6と国、大分県と比して高水準で推移しているものの、今後も死亡数が出生数を上回ることが想定されることから、人口の自然減少に歯止めがかからない現状です。

① 自然増減の推移



出所：大分県統計年鑑

② 合計特殊出生率の推移



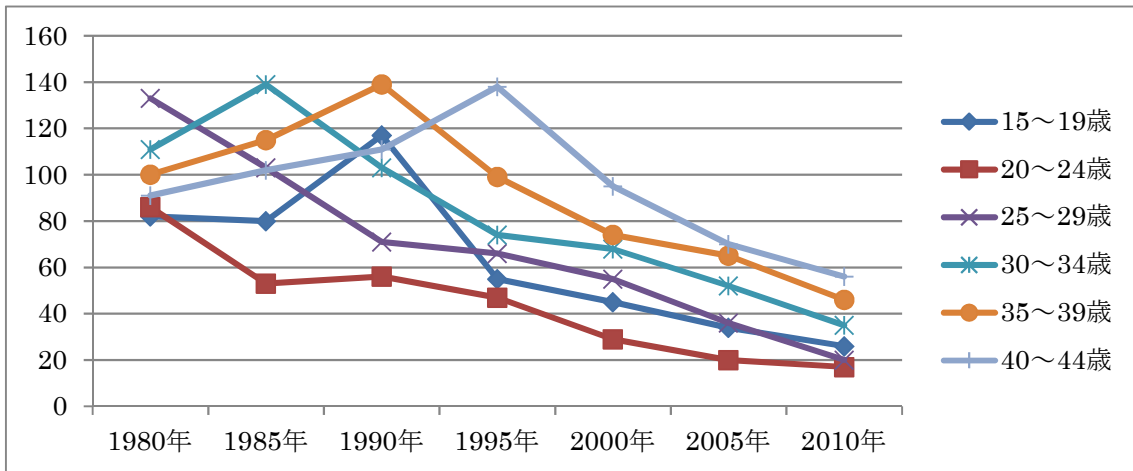
出所：大分県東部保健所

合計特殊出生率とは・・・

一人の女性が、一生の間に生むであろう子どもの数を表し、15歳から49歳の女性の年齢ごとの出生率を合計した数字です。2.07が人口維持の目安です。

ここでは、人口の自然減少が続いている背景から、出産・子育て世代である年齢別の女性の人口動態を分析しています。本村では、15～44歳までの女性人口の減少が続いていることが、急速に少子高齢化が進んでいる要因と考えられます。このことから、進学・就職等による人口流出に歯止めをかけ、出産、子育てをしやすい環境づくりが急務となっています。

③ 女性人口の推移（15歳～44歳）

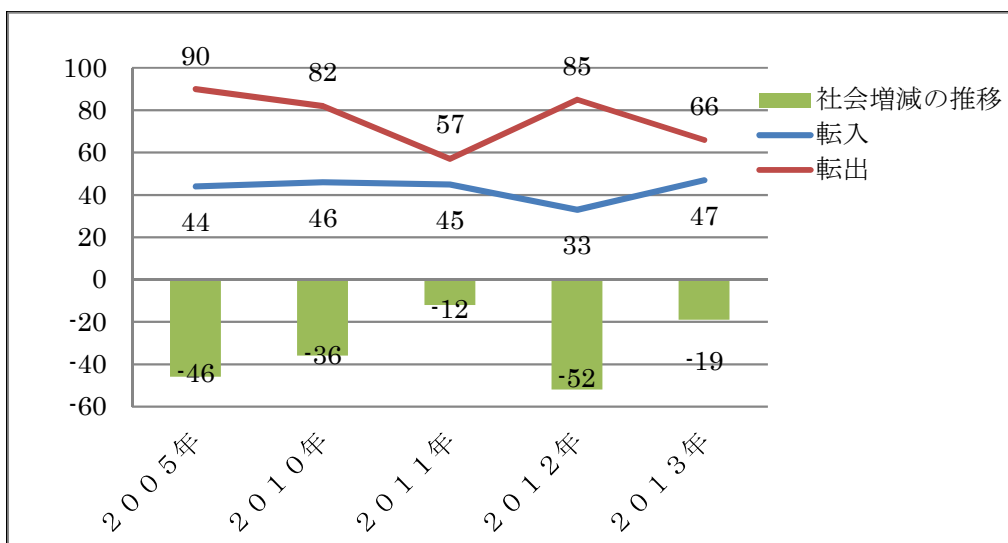


出所：国勢調査

(3) 社会増減に関する分析

1950年(昭和25年)代から転出者数が増加し、社会減となりました。直近の2013年(平成25年)の転入者数は47人、転出者数は66人で、19人の転出超過となっています。

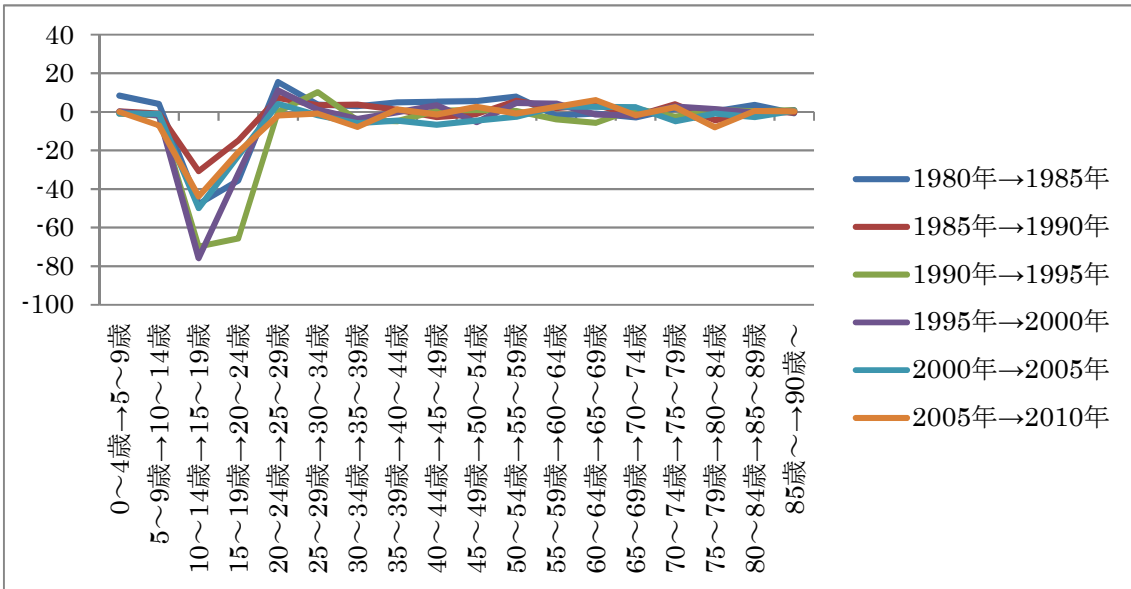
①直近の社会増減の推移



出所：大分県統計年鑑

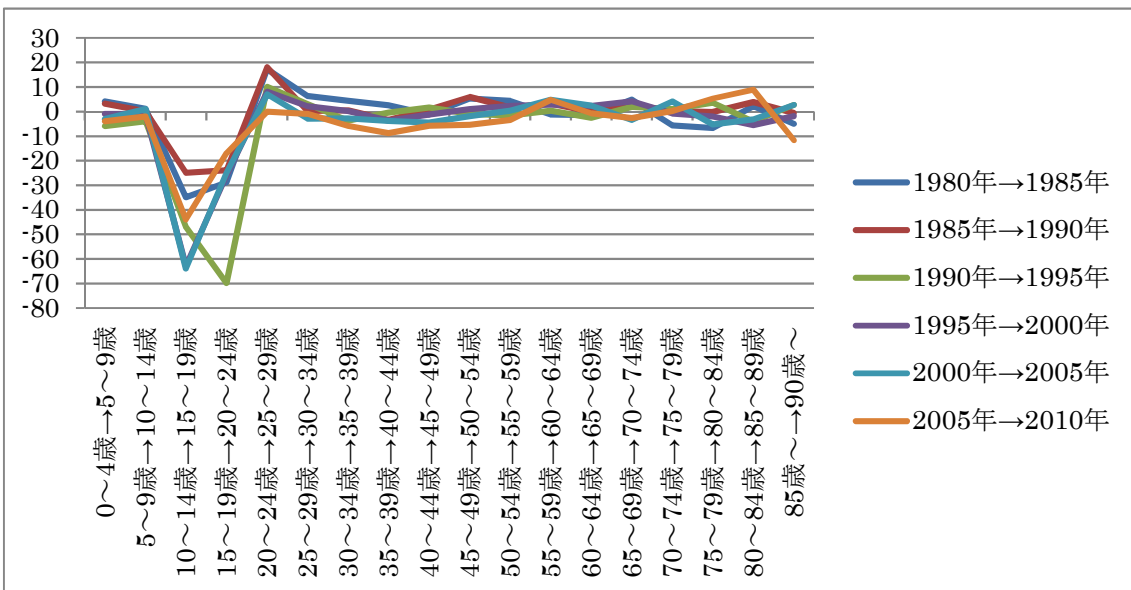
②年齢階層別の人口の移動（男女）

男性



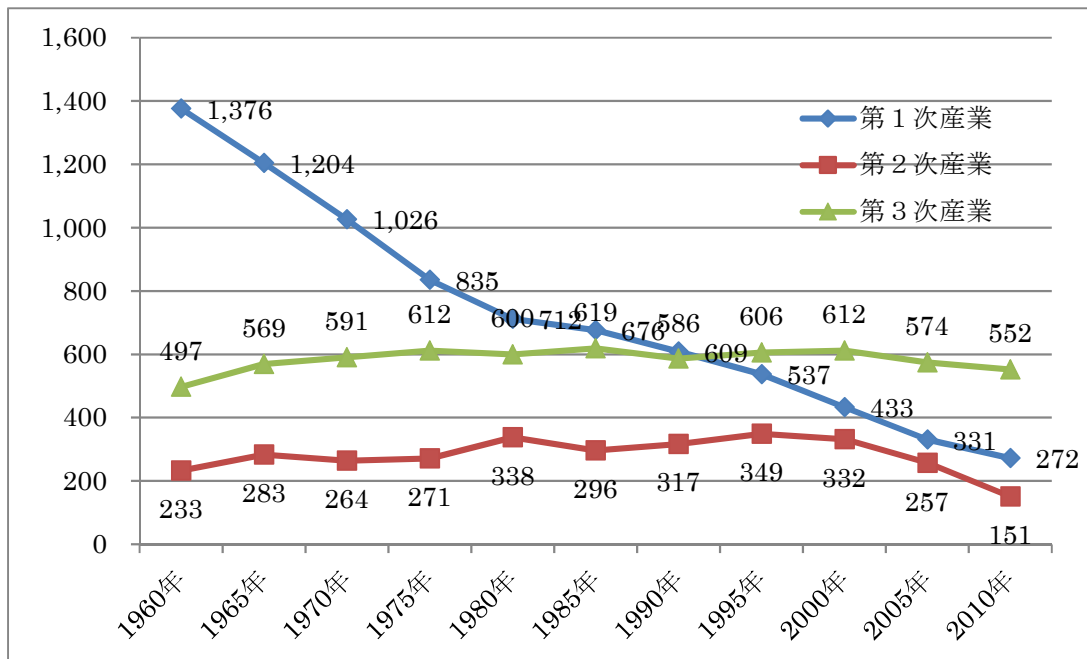
出所：大分県統計年鑑

女性



出所：大分県統計年鑑

(4) 産業別就業者の推移



出所：国勢調査

本村では、1960年（昭和35年）頃から第1次産業就業者が減少し、第2次産業就業者も1995年（平成7年）をピークに減少をはじめ、村外への人口流出が進行してきています。本村の主要産業である漁業の低迷が大きな要因であると思われます。

3 人口の将来推計と分析

(1) 推計人口

①推計方式

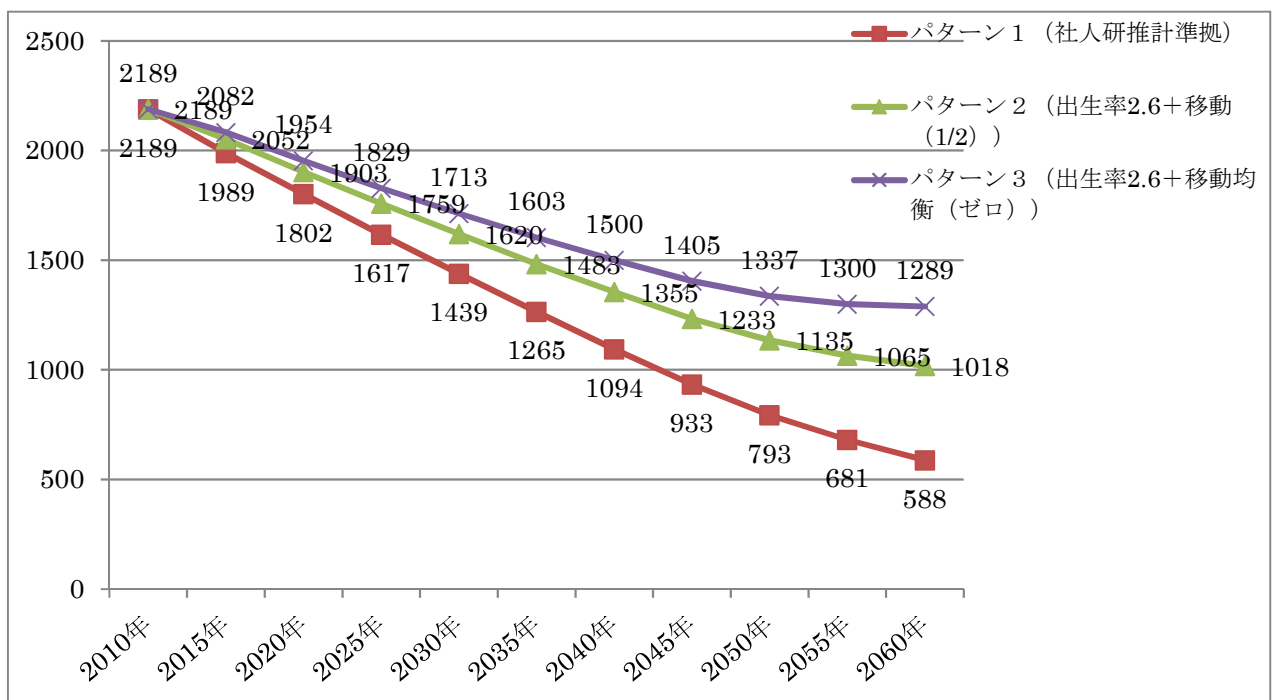
出生・死亡・移動について、一定の仮定を設定した以下の3パターンの推計方式を用いて将来人口を推計します。

推計方式	出生・死亡に関する仮定	移動に関する仮定
パターン1 (現状ベース)	社人研の推計で2060年（平成72年）までを推計	社人研の推計で2060年（平成72年）までを推計
パターン2	合計特殊出生率が2060年（平成72年）まで現状の水準（2.6）で仮定	社人研の推計で純移動率を1/2縮小
パターン3	同上	純移動率がゼロ（均衡）で推移

② 2010年（平成22年）から2060年（平成72年）までの将来人口推計
「総人口」、「年齢3区分別人口」、「老年人口比率」、「20～39歳女性人口」

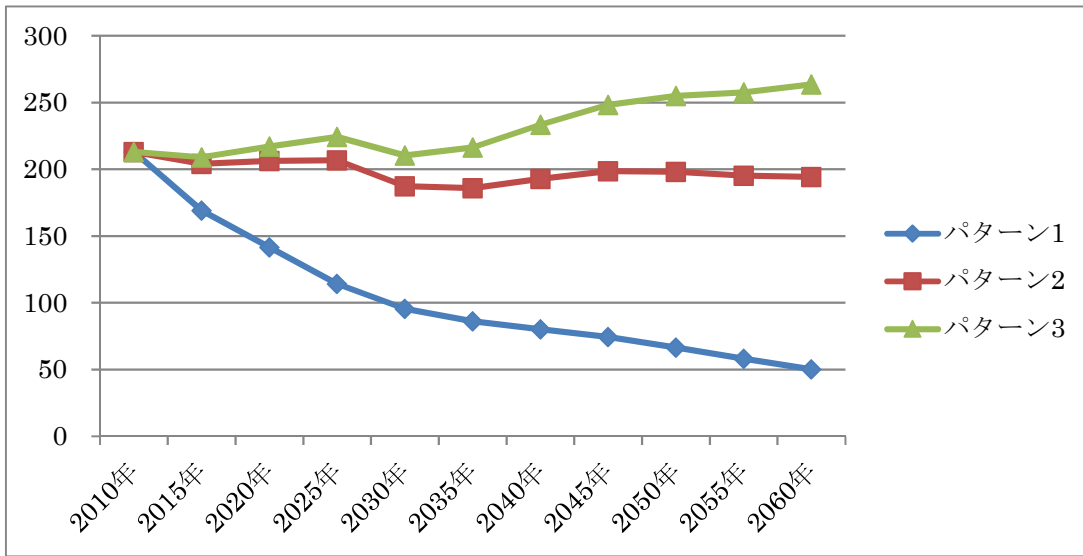
将来推計パターン	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	
1	総人口	2,189	1,989	1,802	1,617	1,439	1,265	1,094	933	793	681	588
	年少人口	213	170	142	114	95	86	79	74	67	58	50
	生産年齢人口	1,170	969	755	607	520	452	391	338	312	289	264
	老年人口	806	850	905	896	824	727	624	520	414	334	274
	老年人口比率	37%	43%	50%	55%	57%	57%	57%	56%	52%	49%	47%
	20～39歳女性人口	121	102	90	87	87	83	67	56	46	40	36
2	総人口	2,189	2,052	1,903	1,759	1,620	1,483	1,355	1,233	1,135	1,065	1,018
	年少人口	213	204	206	207	187	186	193	198	198	195	194
	生産年齢人口	1,170	993	792	655	603	565	533	510	519	537	545
	老年人口	806	855	905	898	830	732	629	525	418	333	279
	老年人口比率	37%	42%	48%	51%	51%	49%	46%	43%	37%	31%	27%
	20～39歳女性人口	121	95	89	95	100	108	108	107	109	102	102
3	総人口	2,189	2,082	1,954	1,829	1,713	1,603	1,500	1,405	1,337	1,300	1,289
	年少人口	213	209	217	224	210	216	233	248	255	258	264
	生産年齢人口	1,170	1,016	830	704	669	649	633	628	661	710	742
	老年人口	806	857	907	901	834	737	633	529	421	332	283
	老年人口比率	37%	41%	46%	49%	49%	46%	42%	38%	31%	26%	22%
	20～39歳女性人口	118	98	99	109	121	136	135	138	143	140	146

③ 仮定値を用いた将来人口の推計

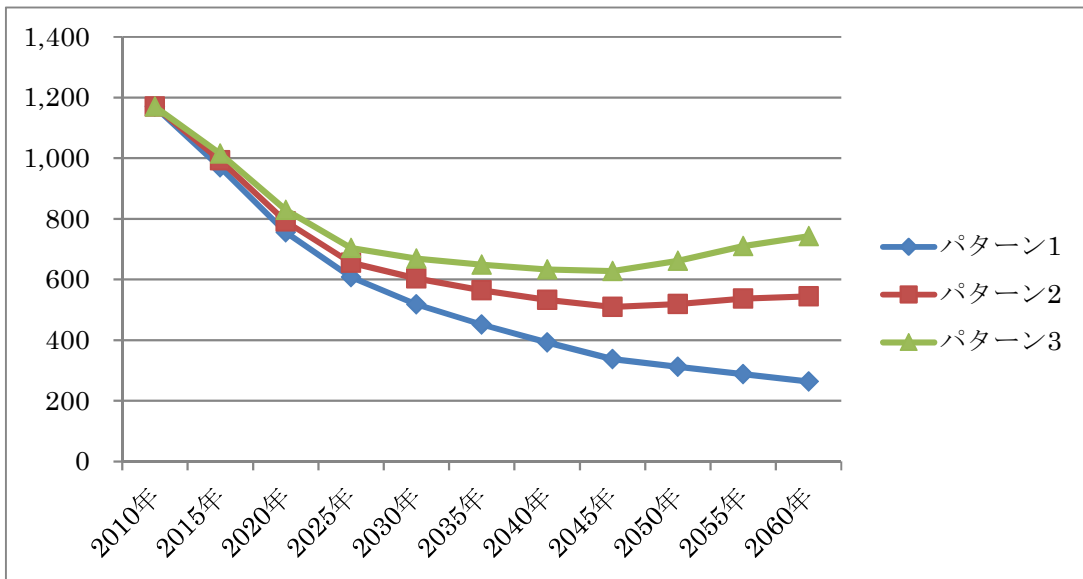


④各階層・推計方式別推計

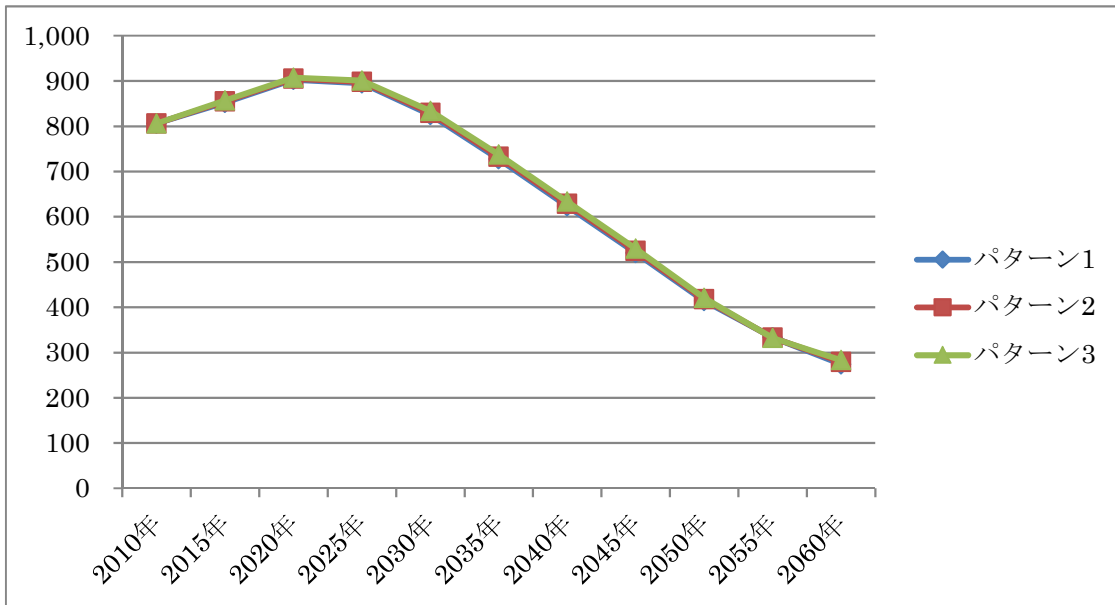
●年少人口推計



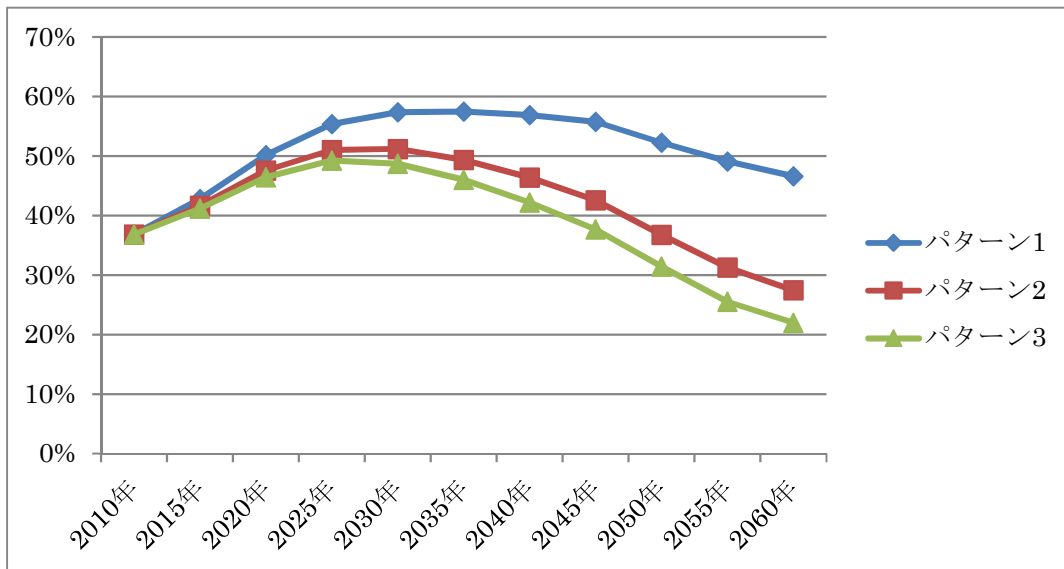
●生産年齢人口推計



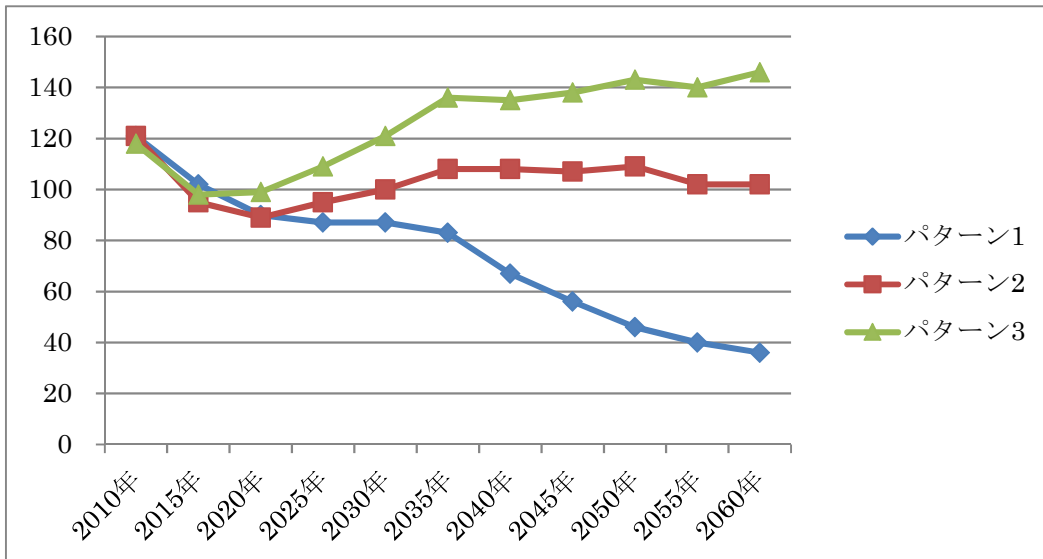
● 老年人口推計



● 老年人口比率推計



● 20 歳～39 歳の女性人口推計



4 人口の現状分析等のまとめ

(1) 人口減少社会の到来

本村の人口は、1955年（昭和30年）の4,178人をピークに減少し、1980年（昭和55年）から、いったん増加に転じましたが、1990年（平成2年）頃から再び減少を続け、2010年（平成22年）の国勢調査では2,189人となっています。主な要因は、1990年（平成2年）頃から本村の主要産業である水産業の低迷が始まったことと、村内の漁業従事者環境が厳しさを増し、将来世代の形成が期待される若い世代を中心に進学・就職等により村外への人口流出「社会減」が進展しました。

さらに、出産・子育て世代の人口減少が進み、合計特殊出生率は、高いものの出生数が死亡数を下回る「自然減」が進んでいます。

(2) 転出超過による人口減少の進行

本村の社会動態の推移を見ると、大幅な転出超過が続いています。【P.5 (①) 直近の社会増減の推移（2013年（平成25年）】、年齢階級別の人口移動の状況では、15歳～19歳から20歳～24歳で大幅な転出超過が見られます。【P.6 (②) 年齢階級別の人口移動（男女）】

(3) 子育て世代の減少による人口減少の進行

若い世代の人口流出により、出産・子育て世代の人口減少も急速に進行しています。【P.5 (③) 女性人口の推移（15歳～44歳）】 出産・子育て世代の人口流出は、人口の自然減少の主要因となり、人口の社会減と相まって、人口減少が加速度的に進行した要因となっています。

日本創生会議・人口減少問題検討分科会「ストップ少子化・地方元気戦略（平成26年5月8日）の分析結果によると、人口移動が現在のペースで持続すると仮定した場合、人口の再生産を中心的に担う「20～39歳の女性人口」が2010年（平成22年）から2040年（平成52年）にかけて△66.4%（118人→40人）になるとされています。

第3部 目指すべき将来の方向

1 人口減少対策の基本的方向

2060年（平成72年）に「推計人口パターン2」の人口1,000人を維持することを目標に、基本的な取組として「結婚・出産・子育て・人づくりの推進」、「水産業の振興と地域資源を活用した産業の振興、雇用の促進」、「安心して暮らせる村づくり」を進め、地域活性化を目指します。

2 目指すべき人口の展望

本村は、このまま何の対策も取らなかった場合、国立社会保障・人口問題研究所によると2040年（平成52年）までに人口が半分以下になってしまうと推計されています。今後も少子高齢化の進展に伴い、自然減が予想されることから、人口が減少していくことは避けては通れない状況にあります。

村としての活力を将来にわたって維持していくためには、人口の定着を一層推進し、子育て環境の整備や雇用の場の拡大・創出など魅力と活力にあふれる村づくりに総合的に取り組むことにより、人口の減少をできる限り抑制する必要があります。

このため、今回策定する人口ビジョン及び総合戦略では、人口減少に歯止めをかける各種施策の立案・推進を図り、具体的目標として2060年（平成72年）での人口1,000人を目指します。

第2章 姫島村まち・ひと・しごと創生総合戦略

第1部 基本的な考え方

1 策定の背景

我が国における人口減少や急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、特に人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的として、2014年（平成26年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立しました。この法律により、市町村は、「まち・ひと・しごと創生」について、地域の実情に応じた総合的かつ計画的に実施するための総合戦略を定め、実施することになりました。

本村においても生産年齢人口の流出や出生率の低下等、人口減少は急激に進んでおり、こうした状況を踏まえ、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域における魅力ある多様な就業の機会の創出に取り組んでいく必要があります。

「姫島村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、2014年（平成26年）12月に国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、本村の実情を踏まえて、今後8年間の政策目標や施策の基本的方向等を勘案して策定するものです。

2 総合戦略の概要

「姫島村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、安心して生活を営むことができる村づくりに向けて、基本目標、施策の基本的方向及び具体的な施策を盛り込みます。なお、基本目標及び具体的な施策については、それぞれに重要業績評価指標（KPI）を設定し、事業の検証及び改善を行うものとします。

3 対象期間

「姫島村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の対象期間は、平成27年度から令和4年度までの8ヶ年とします。

第2部 基本目標と具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

基本目標Ⅰ

結婚・出産・子育て・人づくりの推進

<基本的方向>

結婚して子どもを生き育てやすい環境づくりを推進するとともに、学校教育・社会教育の充実による人づくり・そして学力の向上を目指します。

<数値目標>

婚活の推進による成婚数

令和4年度までの8年間の累計で15組を目指します。

学校教育の充実による教育水準

令和4年度までに全国平均以上を目指します。

<具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）>

1. 婚活の推進

- 1) 出会いの場の提供、支援等
- 2) 結婚祝金の支給

2. 母子保健事業の推進

- 1) 妊婦健診、妊婦健診通院支援
- 2) 不妊治療に係る費用の助成
- 3) 出産祝金の支給

3. 医療費の助成

- 1) 中学校までの医療費無料化
- 2) 各種予防接種の助成

4. 保育の充実

- 1) 保育所の充実
- 2) 地域子育て支援センターの活用

5. 幼児教育の充実

- 1) 教諭の指導力の向上
- 2) 保育所・小学校との連携強化
- 3) 幼稚園預り保育の実施

6. 学校教育の充実

- 1) 確かな学力の定着・向上
 - ・学習規律の確立
 - ・児童、生徒の習熟度に応じた個別指導の充実
 - ・ユネスコスクールへの加盟
 - ・小・中一貫型教育（教育課程特例校）を目指し、小学校に「外国語科」、小中学校にふるさとの自然や歴史、文化等を学習するため「ふるさと科」の新設
 - ・県立美術館と連携した情操教育の推進
 - ・土曜授業の実施
 - ・放課後児童クラブの実施
- 2) 「協育ネットワーク」を活用した総合的な子どもの支援
 - ・かっこ塾（小学校）や水曜日塾・土曜日塾（中学校）の充実
 - ・家庭学習・読書活動の推進
- 3) 心の教育の充実
 - ・道徳教育の推進
 - ・人権教育の推進
 - ・水産教室の実施
 - ・ジオ学習の推進
 - ・奉仕・福祉体験学習の推進
- 4) 体力の向上
 - ・地域人材の活用によるスポーツ活動の充実
 - ・食育の推進
 - ・「歯と口の健康教育」の推進
- 5) 時代の変化を見据えた教育の推進
 - ・コンピュータや情報通信ネットワークを活用した情報教育の推進
 - ・外国語教育の充実や外国人との交流の拡大
- 6) 教育環境の整備
 - ・通学バスの更新
 - ・教材の充実

7. 社会教育の充実

- 1) 公民館講座の充実
- 2) 公民館図書室の充実
- 3) 高齢者教室の充実
- 4) 家庭教育の充実
- 5) 人権教育の推進
 - ・人権学習の推進
- 6) 青少年健全育成の推進

- ・ふるさと学習の実施
 - ・すぐれた芸術・文化に接する機会の提供
 - ・世代間交流の推進
- 7) 体力づくりの推進
- ・運動公園の利用促進
 - ・軽スポーツセンターの利用促進
 - ・各種スポーツイベントの開催
- 8) 伝統文化の継承と保護、保存
- ・姫島盆踊
 - ・舟引き祭
 - ・各地区の伝統行事（お祭等）の保存・保護
 - ・食文化の保存・保護
- 9) 青年団等各種団体主催行事の支援

8. 男女共同参画社会の推進

9. 婦人会活動の充実

10. 高齢者が生きがいをもって暮らせる環境づくり

- 1) 老人クラブ活動の推進

【重要業績評価指標（K P I）】

K P I		基準値（平成 26 年度）	目標値（令和 4 年度）
成婚数		3 組	6 組
婚活イベント参加者数		0 名	10 名以上
教育水準	児童生徒の学力（知識）平均正答率	小学校 ————— 中学校 —————	小学校 全国平均以上 中学校 全国平均以上
	児童生徒の学力（活用）平均正答率	小学校 ————— 中学校 —————	小学校 全国平均以上 中学校 全国平均以上
	児童生徒の体力（総合評価 C 以上の児童生徒の割合）	小学校 ————— 中学校 —————	小学校 全国平均以上 中学校 全国平均以上
老人クラブ活動参加者数		244 名	350 名

基本目標Ⅱ

水産業の振興と地域資源を活用した産業の振興、雇用の促進

<基本的方向>

本村の基幹産業である水産業の振興を図るとともに、特徴ある地域資源を活かした取り組みや、Uターン・Iターン促進などにより、活力ある村づくりを目指します。

<数値目標>

水産業の振興による漁獲高、新規就業者数

令和4年度までに年間漁獲高718百万円を目指します。

令和4年度までに年間新規漁業就業者数2名を目指します。

産業の振興による入り込み客数

令和4年度までに年間入り込み客数50,000名を目指します。

<具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）>

1. 水産業の振興

1) 沿岸漁業の振興

①資源管理型漁業の推進

- ・種苗放流の推進
- ・漁業規制の強化と啓発活動の推進

②藻場保全の推進

- ・食害生物の除去（ウニ類）
- ・栄養塩類の供給
- ・岩盤清掃
- ・藻場モニタリング

③海底耕うんの推進

④漁業所得の向上

- ・加工施設を使った6次産業の推進
 - 水産加工センターの活用
 - 姫島魚のPRの推進と販路拡大

⑤漁場の整備と漁港の整備と機能保全

2) 車えび養殖の振興

①生産量の安定

②加工の推進

③複合養殖（あさり）の推進

3) 新規就業者の育成・確保

①県の補助制度による新規就業者の確保

【重要業績評価指標（K P I）】

K P I	基準値（平成 26 年度）	目標値（令和 4 年度）
漁獲高	641 百万円	718 百万円
漁業所得（1 経営体）	889 千円	996 千円
新規漁業就業者数	0 名	2 名
加工品売上金額		
車えび養殖株式会社	63,525 千円	150,000 千円
漁協	16,688 千円	50,000 千円

2. 産業の振興

1) イベントの開催による観光の振興

- ①姫島かれい祭・姫島車えび祭・姫島盆踊
- ②「姫島女将の会」による食のフェアの推進
 - ・ 姫島かれいフェア
 - ・ 姫島車えびフェア
 - ・ 姫島車えびしゃぶしゃぶフェア
- ③アンテナショップの活用
 - ・ 特産品の販路拡大と姫島の情報発信

2) 地域資源を活かした観光の振興

- ①おおいた姫島ジオパーク活動の推進
 - ・ ジオパーク拠点施設等関連施設の整備
 - ・ ジオガイドの養成
 - ・ アサギマダラ飛来地としての環境づくり
 - ・ ジオ学習の充実
- ②観光施設の充実
- ③拍子水の活用
 - ・ 拍子水の調査と利用方法の検討

- ④姫島海水浴場の利用促進
- ⑤「姫島女将の会」による体験プログラムの実施
 - ・盆踊の体験
 - ・海草を利用したの押し花
 - ・かんころもち作り

3) 農業の振興

- ①農地の利活用
- ②耕作放棄地対策
- ③換金作物の奨励
- ④種苗購入の補助

【重要業績評価指標（K P I）】

K P I	基準値（平成 26 年度）	目標値（令和 4 年度）
観光入り込み客数	約 35,000 名	50,000 名
拍子水温泉の利用者数	15,426 名	20,000 名
ジオガイド数	3 名	10 名

3. 雇用の促進

- 1) 雇用の場の創出
 - ①藻類養殖の推進
 - ②姫島水産加工センターの活用
 - ③企業誘致の推進
 - ④姫島車えび養殖株式会社の雇用の拡大
 - ⑤「ワークシェアリング」の推進
 - ⑥Uターン、I ターンの支援

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI	基準値（平成 26 年度）	目標値（令和 4 年度）
藻類養殖の経営体	3 経営体	9 経営体
Uターン数	11 名	20 名
Iターン数	3 名	
新規就職者数	11 名	11 名

基本目標Ⅲ 安心して暮らせる村づくり

<基本的方向>

健康づくりと住環境の整備等の推進

<数値目標>

健康づくりの推進による平均寿命と健康寿命の差

令和4年度まで平均寿命と健康寿命の差の短さ県下1位の維持を目指します。

<具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）>

1. 健康づくりの推進

- 1) 診療所を中心とした地域包括医療・ケアの推進
- 2) 介護予防事業の推進
 - ・生活習慣病予防教室の開催
 - ・元気老人に対するデイサービスの実施
- 3) 保健、医療、介護関係のマンパワーの確保
- 4) 平均寿命と健康寿命の延伸化
- 5) スポーツによる健康づくり

2. フェリーの安定・安全運航

- 1) 船舶の安全管理
- 2) 利用者サービスの向上

3. 社会資本の整備

- 1) 港湾施設の整備、港湾・海岸環境の利活用
- 2) 橋梁の点検及び補修
- 3) トンネルの点検及び補修
- 4) 道路の舗装補修等

4. 良質な水道水の安定供給

- 1) 施設の改良
- 2) 非常用発電設備の設置

5. 下水道の整備

- 1) 長寿命化対策事業の実施

6. ごみ処理対策の推進

- 1) 施設の老朽化に伴う清掃センターの建替

- 2) ごみの減量化の推進
- 3) ごみのリサイクルの推進
- 4) 不法投棄防止の啓発

7. 空き缶デポジットシステムの推進

8. 消防・防災等安全体制の強化・充実

- 1) 消防・救急体制の充実
- 2) 地震・津波等防災体制の確立
- 3) 災害対策の充実・強化

9. 火葬場、斎場の整備

10. 景観計画の策定及び文化的景観事業の推進

11. 空き家対策

- 1) 特定空き家の処理
- 2) 利活用の推進

12. 二次交通対策

- 1) コミュニティバスの運行
- 2) レンタカー等レンタル事業の支援

13. ひとり親家庭に対する支援

- 1) 生活安定のための支援
- 2) 雇用の場の提供

【重要業績評価指標（K P I）】

K P I	基準値（平成 26 年度）	目標値（令和 4 年度）
1 人あたりの 医療費の低さ	県下 1 位 (1 人あたり 769 千円)	県下 1 位
介護保険料の低さ	県下 1 位 (1 人あたり 3,500 円)	県下 1 位
平均寿命と健康寿命の差	平成 23 年度県下 1 位 男性 1.15 歳 女性 1.99 歳	県下 1 位 男性 1.0 歳 女性 1.5 歳